

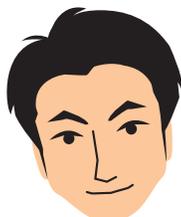
こども新聞  
週刊がほピョンプレス



きょうのテーマ

おりはらアドバイザーの

学ぼう防災⑦



11月5日は何の日か知っていますか？ 答えは「津波防災の日」です。これには「稲むらの火」という物語が関係しています。

1854年11月5日、四国から紀伊半島の沖を震源とする「安政南海地震」が起き、津波が発生しました。和歌山県の高台に住む浜口梧陵という人が津波にいち早く気づき、刈り取ったばかり

の自分の稲の束に火をつけて、村人を高台に誘導して命を救ったという実話が基となった物語です。津波防災の日はこの出来事にちなみしました。

津波は世界共通語。国連は11月5日を「世界津波の日」と定め、世界中で津波の恐ろしさや対策を考える日としました。

11月5日は津波防災の日

素早い避難 常に心がけて

津波の危険があるとき、気象庁は予想される高さに応じて「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」の3段階の警報・注意報を出します。

発表があると、仙台市も「避難指示(緊急)」を発令し、携帯電話の緊急速報メールなどで知らせます。

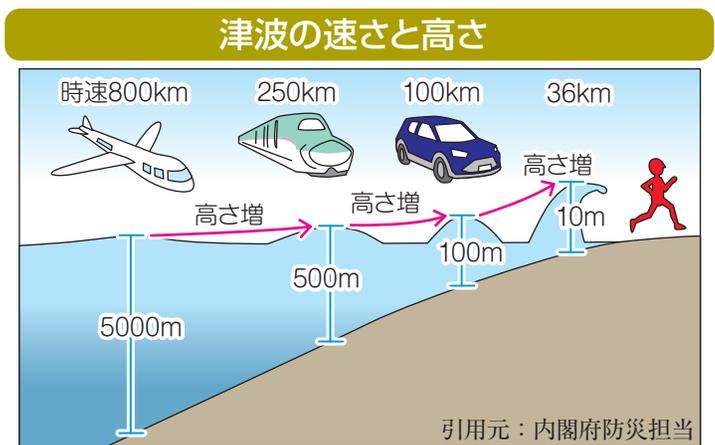
津波の速さは沖合ではジェット機並み、陸近くでも時速36キロと100メートルのオリリンピック選手と同じと言われていました。津波を見てから競走しても勝てません。

「早く」「高く」「遠くへ」が避難のキーワード。大きな地震の後や津波警報が発表された場合、すぐ逃げることを考えてみましょう。少しでも早く避難できるように、

普段から避難が必要なエリアや避難場所を確認しておくことが重要です。

東日本大震災からもうすぐ10年。1万5000人以上が亡くなり、その9割以上が津波の犠牲者でした。悲しい出来事を繰り返さないため、津波から命を守る方法をしっかり学び、未来に伝えなければなりません。

(仙台市防災・減災アドバイザー・折腹久直)



津波の速さは地震の規模によらず、海の深さで決まります。浅い場所ほど遅くなるため、後ろの波が前の波に追いつき、高い津波になります。

警報・注意報の発表(気象庁)		避難情報の発令(自治体)
種類	予想される高さ	
大津波警報	3mを超える	避難指示(緊急)
津波警報	1mを超え3m以下	
津波注意報	0.2m以上1m以下 ※災害のおそれがある場合	



仙台市の「津波避難エリアと避難場所マップ」。いざというとき素早く避難できるように、レジャーなどの際も、お出掛け先の情報を確認しておきましょう。

今週の注目ニュース

◇31日(土) ハロウィーン  
新年を前に収穫を祝った古代ヨーロッパのお祭りが起源なんだ。この時期現れる悪霊から身を守るため仮面をかぶったという風習が残り、仮装を楽しむお祭りとして日本でも定着したよ。

11月の紙面

2面	ニコ☆プチ
3面	3分チャレンジ
4・5面	いいね 小学校
6面	絵でわかる こども英語
7面	投稿特集
8面	子育て・教育相談コーナー

みんな思い出

みんな言いたい

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ